

第 47 期(2018 年度)

事業報告書

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団

I. 事業概要

全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は増加の一途を辿り、子どもたちが直面する現実は厳しさを増しています。そうした子どもたちを支援する施設や里親の活動支援は十分とは言えません。当財団では「子どもを育む人を育む」という観点から、実務者をサポートすることで子どもの成長を後押しするための活動や、社会的養護下におかれた子どもたちのスムーズな自立を応援する活動を中心に実施しています。

II. 活動一覧

当財団は、研修、助成、啓発の3つを事業領域としています。2018年度は以下の内容で実施しました。

(1) 研修事業

① 児童福祉分野で働く職員に向けた海外研修

資生堂児童福祉海外研修は1972年の開始以来、児童福祉業界の中核人材を約700名輩出しており、児童福祉領域におけるリーダーの育成や業界全体としての専門知識の底上げに寄与しています。2018年度はイギリスにおいて第44回研修を実施し、14名が参加しました。一方、2010年から開始した東アジア児童福祉職員交流研修は、韓国との交流研修を継続しています。両国を相互に訪問し、互いの国の良い点を学び合う機会と位置付け、自立支援の現状や課題に関する発表会やグループワークを開催しています。2018年度は日本で実施しました。

資生堂児童福祉海外研修	実施日 2018年9月25日～10月7日 研修国 イギリス テーマ イギリスの児童福祉システム
東アジア児童福祉職員交流研修	実施日 2018年6月29日～7月1日 場 所 スペースFS 汐留、資生堂汐留オフィス テーマ 日韓両国の実務者による交流研修

② 児童または青少年に向けた研修

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちが、18歳で施設や里親の元を巣立つにあたり、環境の変化に順応できるように自立を支援する研修を行っています。資生堂が持つ資産を活かした活動であること、児童からの参加希望が年々増加していること、などから優先順位の高い活動と位置付け、協賛企業と協働しながら活動を進めました。

身だしなみ講座	実施日 2018年4月～2019年3月 場 所 全国8カ所 内 容 社会人として相応しいスキンケア・メーキャップ、スーツの着こなし方に関する講座の開催
スターターズセミナー	実施日 2018年4月～2019年3月 場 所 全国7カ所

	内 容 自立して生活するために必要な、金銭・就労・住居・コミュニケーション等の社会的スキルに関するセミナーの開催
社会への巣立ち フェスティバル	実施日 2019年3月3日 場 所 東京 資生堂汐留オフィス 内 容 社会的養護を離れる児童の巣立ちを祝福する会の開催と、 社会人として相応しい身だしなみや、先輩の体験談等の講座の実施

(2) 助成事業

① 個人・団体に対する助成

社会的養護に置かれている子どもたちを支援する団体の中から、当財団の目指す方向性が一致する団体の活動へ助成を行っています。なかでも、当財団の資生堂児童福祉海外研修のOB会から結成された「NPO STARS」は、現場や子どものことを最も熟知した人材が多数所属する集団で、STARSとの連携は当財団にとっても重要であることから2018度も継続して助成しました。

STARS セミナー	主 催 NPO STARS 開催日 2018年6月30日(東京)、2019年2月23日(大阪) 場 所 スペースFS汐留(東京)、資生堂大阪ビル 内 容 子ども家庭支援に活かすアセスメント
子どもの仕事フェスティバル	主 催 NPO STARS 開催日 2018年5月5日(東京)、5月20日(名古屋) 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京) 名古屋市総合社会福祉会館(名古屋) 内 容 シンポジウム、施設紹介、就職説明会ブース
家庭養育機能支援 子育てワークショップ研修会	主 催 日本キリスト教児童福祉連盟 開催日 2018年9月3日～6日 場 所 資生堂湘南研修所 内 容 基調講演、ロールプレイング研修
全国児童家庭支援センター協議会 実務者研修	主 催 全国児童家庭支援センター協議会 開催日 2018年7月11日(東京)、7月25日(大阪) 場 所 TKP品川カンファレンスセンター(東京) 大阪市立社会福祉センター(大阪) 内 容 社会的養育ビジョンとこれからの地域支援・ソーシャルワーク、里親支援の実践に求められるもの、児童家庭支援センター・施設ソーシャルワークでリードする新しい子ども家庭支援、これからの地域支援、里親支援
児童虐待防止に向けた セミナー・イベント	児童家庭支援センターが主催する「子育てセミナー」8カ所、「オレンジリボンキャンペーン」6カ所に助成

② 児童または青少年に向けた助成

児童福祉施設や里親の元から自立し、社会福祉士や保育士など児童福祉分野での活躍を希望して大学・短期大学・専門学校に進学している学生13名に対し、入学金や授業料の一部として年間50万円(上限)を返済不要で支援しました。

資生堂児童福祉奨学金	4年生大学6人、2年生短大3人、専門学校4人、計13人に給付
------------	--------------------------------

(3) 啓発事業

○情報誌「世界の児童と母性」の発行

児童福祉に関する研究発表の場の提供や、児童福祉の現場の課題解決に繋げるための情報提供を目的とする情報誌「世界の児童と母性」を発行しています。1975年の創刊以来、児童福祉分野の有識者や経験豊富な実務者に参画いただき、施設で働く方々への有益な情報を提供してきました。2018年度も、変わりつつある児童福祉を取り巻く環境を見極め、より時代に合った内容や構成を目指して発行しました。

「世界の児童と母性」85号	「世界の児童と母性」86号
発行時期：2018年4月 発行部数：2800部 特集テーマ：「子どもの育ちと家庭」	発行時期：2018年10月 発行部数：2800部 特集テーマ：「コミュニティの変容と社会的養護」

Ⅲ. 主な活動報告

1. 研修事業

●資生堂児童福祉海外研修

2018年9月25日～10月7日の日程で14名が参加し、イギリスにおいて実施しました。研究者による制度政策の講義を受けて近年の変化や現システムに関する理解を深めるとともに、支援の現場を中心に訪問して施策の具体的展開を学びました。なかでも、性的虐待加害予備軍に対するオンラインでの予防的支援、性的虐待など重篤な虐待被害児に司法面接を行うための新施設、施設・里親・学校のコラボレーションなど、イギリスでの先進的な取り組みの情報を持ち帰ることができたのは大きな収穫となりました。

また、前年度(2017年度)に実施した「ルーマニア・ドイツ」研修については、研修結果をもとに研修修了者が「資生堂児童福祉海外研修報告書」を作成して厚生労働省にて発表し、その後各施設の協議会が主催する研修会、全国13カ所で結果報告を実施しました。



第44回資生堂児童福祉海外研修結団式 2018年8月24日



イギリスの研修風景



厚生労働省研修報告会(4月18日)

●社会への巣立ちフェスティバル

主に児童養護施設で暮らす東京近郊の高校3年生を抽選で146名招待し、3月3日に資生堂汐留オフィスで開催しました。同フェスティバルは子どもたちの高校卒業をお祝いするとともに、施設や里親のもとから巣立つ子どもたちが社会人としての第一歩をスムーズに踏み出すための講座を提供するもので、今回で14回目を迎えました。

社会人としてふさわしいスキンケアやメイクアップを学ぶ「身だしなみ講座」や、子どもたちにスーツをプレゼントしてくれた株式会社 AOKI によるスーツの着こなしや冠婚葬祭時のマナーを学ぶ「装いマナー講座」、自立後の時間管理や体調管理、自炊、お金の使い方や人間関係などについて学び先輩たちからアドバイスをもらう「先輩の体験談講座」を行いました。



装いマナー講座の風景



身だしなみ講座の風景

2. 助成事業

●児童虐待防止に向けたセミナー・イベント

児童家庭福祉に関する地域相談機関である全国の児童家庭支援センターが主催する子育てセミナーやオレンジリボンキャンペーン等、合計14のセミナー・イベントに助成を行いました。現在、多くの児童家庭支援センターでは、児童虐待の発生予防や親子関係の再構築支援、心のダメージの回復を目指した専門的ケアを実施しており、家族全体が抱える問題とその急激な変化に寄り添う支援や一人一人の成長に合わせたアフターケア(自立支援)を実践しています。子育てをしている方々と地域との繋がりが少なくなっている現在、同センターが主催する当該セミナーやイベントを通じてセンターを知る機会となること、また子育てに対する不安やストレスを一人で抱え込んでいるお母さん・お父さんたちをサポートする活動に繋がることから2018年度も助成しました。



オレンジリボンキャンペーンの風景

●資生堂児童福祉奨学金

将来、社会福祉士や保育士など、児童福祉分野での活躍を希望して大学・短期大学・専門学校に進学している、主に児童福祉施設出身の学生たち13名の授業料の一部として、年間50万円(上限)を返済不要で

支援しました。

3. 啓発事業

●情報誌「世界の児童と母性」の発行

2016年の児童福祉法改正により「家庭的養育」の重視が明確となり、「児童ができる限り良好な家庭的環境において養育されるよう、必要な措置を講じなければならない」と示されたことを受け、法改正のキーワードである「家庭」「地域(コミュニティ)」について改めてきちんと考えるべきとして、4月(83号)は「子どもの育ちと家庭」、10月(84号)は「コミュニティの変容と社会的養護」の内容で発行しました。



情報誌「世界の児童と母性」83号、84号

以上